

61.3  
ダイ改

# なす許 強行-切り-労働的 団交

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

線見実力阻止、2波ストで追撃を  
2.14と15の二波ストで追撃を

いよいよ「61・3ダイ改」阻止Ⅱ業務移管・検修合理化阻止闘争の最大の山場に突入した。線見阻止闘争の最高揚に追いつめられ、ついに職場への官憲導入を開始した当局に対し怒りをたぎらせるとともに、事前作業のタイムリミットを口実とした当局の団体交渉の一方的打ち切りⅡ「61・3」強行阻止に向け、非協力・順法闘争、二・一四～一五、第二波ストを断固貫徹しよう。

警察権力を前面におし出した  
凶暴な弾圧体制打ち破れ

不当処分への怒りの非協力・順法闘争と、それに引き続き業務移管阻止Ⅰ線見阻止闘争の最大の高揚、波及に追いつめられた当局は、警察権力を前面におし出した強権的弾圧に打って出て来ている。成田運転区では、連日庁舎入口まで乱闘の機動隊がおしかけ、組合員に対し挑発をくり返し、弾圧を虎視たんたと狙っている。

千葉駅ホームでも、白腕・公安に守られた線見乗務員に対する当然の弾劾行動に対し、私服刑事が手錠をヌキ、事あらば逮捕するぞとばかりの恫喝をかけてきている。津田沼電車区でも初日から機動隊が構内をはいかいたのを始め、連日構内入口にジュラルミンの楯をかまえた多数の機動隊・私服が介入の機をうかがうという体制をしいているのである。

一体これはなんだ。まさに、業務移管が合理化問題や国鉄部内の問題ではなく、動労千葉や闘う千葉の労働者の闘いの圧殺Ⅰ労働運動の解体を狙った政治的攻撃であることを何よりも物語っているではないか。  
こんなデタラメを許せるか。

線見阻止こそ勝利のカギだ

当局は「61・3」の検修大合理化Ⅰ基

地統廃合、業務移管等で全国で三万人もの首切り要員を生み出し、「61・11」では全面的基地統廃合を中心に六～七万人もの首切り要員を生み出そうとしている。まさに「61・3」をどう闘うかに労働者の一切の展望がかかっている。その最大の焦点が業務移管をめぐる攻防なのだ。

だが業務移管は決定的弱点がある。すなわち線見がうまく行かなければ決して強行できないのだ。だからここを徹底的に突きまくれば必ず勝利できるのだ。

第二波ストで  
「61・3ダイ改」阻止へ

敵の攻撃点が実は最大の弱点であるがゆえに、権力をも導入し、必死で大弾圧をかけている。

そして、「ギリギリのタイムリミット」と称し、二月十二日～十五日を山場に、団体交渉の打ち切り「61・3ダイ改」の強行へ一気に突き進み、抵抗を断念させんとしている。首が切られるとわかっていてどうして屈服できるか！

動労千葉は線見阻止闘争をさらに断固として闘うと共に、十二日から全組合員対象の非協力・順法闘争を強化し、十四・十五日、怒りの第二波ストで断固反撃に決起することを決定した。

全組合員が直ちに、強固な闘争体制を確立し、「61・3」粉碎へ突き進もう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！